



公益財団法人櫻谷文庫

平成 31 年度（2019 年度）事業計画



平成 31 年度公益財団法人櫻谷文庫事業計画

基本的考え方

櫻谷文庫は、木島櫻谷の居宅である和館、洋館、画室の建造物および櫻谷作品、習作、写生帖等、櫻谷収集の書画書籍類などの収蔵品からなる。また、建造物 3 棟は、国登録有形文化財、京都市景観重要建造物、京都市指定有形文化財に登録、指定されている。

収蔵品については、櫻谷作品、習作、写生帳や画材、手紙類など櫻谷の制作に関わる資料類、さらに櫻谷の収集した中世から近代にかけての陽明学朱子学関係日本画関係書画、詩文集、書籍、典籍や、近代美術関係資料など一万点以上からなる。建造物、所蔵品の一般公開・展示、収蔵物資料等の調査、整理、データベース化のため、建造物の維持修復、収蔵品等の維持、修復、調査、研究を進める。これらにより、近代建築史、美術・美術史、芸術の振興、学術研究への寄与、京都市を含む地域振興をめざす。また隣接する学校法人ヴィアツール学園等と連携し、教育活動の推進のため協力、支援をすすめる。



公益目的事業

- (1) 2019 年春の櫻谷文庫公開展示 ～ 今小路通り沿い連携公開への協力(独自)
- 「桃の節句」の時期の公開・展示
期間 2019 年 4 月 6 日(土)～4 月 7 日(日)の土日(2 日間)
公益収入 96,000 円
(内訳)入場料 600 円×80 人/日×2 日=96,000 円
公益経費 83,800 円
(内訳)人件費 2 日×5 人×6,500 円=65,000
事務用品費 5,600 円
通信費 6,300 円
旅費交通費 3,900 円
雑費 3,000 円
- (2) 2020 年春の櫻谷文庫公開展示 ～ 今小路通り沿い連携公開への協力(独自)
- 「桃の節句」の時期の公開・展示
期間 2020 年 3 月 1 日(日)～3 月 29 日(日)の土日祝(10 日間)
公益収入 480,000 円
(内訳)入場料 600 円×80 人/日×10 日=480,000 円
公益経費 419,000 円
(内訳)人件費 10 日×5 人×6,500 円=325,000 円
事務用品費 28,000 円
通信費 31,500 円
旅費交通費 19,500 円
雑費 15,000 円
- (3) 櫻谷文庫の随時公開1.(独自)
- 京都市文化財マネージャー育成講座、泉屋博古館の博物館講習への実技実習協力の事業、立命館大学文学部京都学講義、立命館大学アートリサーチセンター、京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科建築造形学部門演習、衣笠小学校社会科見学など教育・研究への協力、併せて京都市 MICE 推進事務局に連携し、映画、テレビドラマ制作に協力する。
- 公益収入 120,000 円



(内訳)

大学講義演習関係 50,000 円

文化財マネージャー育成講座 20,000 円

他映像制作協力関係 50,000 円

(4) 櫻谷文庫の随時公開 2. (独自)

随時公開については、グループ、団体等との時間調整の上実施する。

公益収入 50,000 円

(内訳) 団体見学者入場料 50,000 円

(5) 東方学会 第 64 回国際東方学者会議関西西部会 見学会

5 月 25 日に開催される会議来訪者 40 名程度の見学会

公益収入 21,600 円

(内訳) 540 円×40 人=21,600 円

(6) 建築物の修復保全

洋館の修復工事に先だって、経年劣化状況を確認し修復工事計画の設計を行う。

櫻谷文庫にて文化財マネージャー育成講座を定期的で開催している、一級建築士事務所特定非営利活動法人古材文化の会設計室に委託し実施する。なお、本調査については一般財団法人建築研究協会にも見積を実施し、建築研究協会が、2,700,000円、古材文化の会が1,866,240円であったため古材文化の会に委託することとした。

京都市補助金 700,000円

公益支出 1,886,240円

(7) 地域、美術系、学術教育、映像メディア連携と櫻谷文庫情報の拡散(独自)

等持院等地域の観光スポットとの連携、衣笠地区の堂本印象美術館他美術系法人、地域の等持院、真如寺、平野の家わざ永々棟他との連携、京都への来訪者の多い東京でのPR強化のため京都市東京事務所、六本木七丁目の京都アンテナスタジオ「京のお稚児さん」、江東区文化コミュニティ財団、住友財団との連携、京福電鉄、JR 西日本京都交流推進委員会、JR 東海京都・奈良・近江文化情報事務局、京都市観光協会(京都駅観光総合案内所を



含む)、京都新聞社、KBS 京都、NHK、フジテレビ他との連携、情報提供を強化する。既存メディアだけでなく Facebook、Twitter 等の活用、継続的情報発信による情報拡散を図る。

(8) 櫻谷文庫収蔵品の調査・整理データベース化(共同)

① 書簡等

数千点以上の書簡類等の整理、調査を終了する。スキャナーでの画像取込み、整理をすすめ成果の公開、展示につなげる。なお、経費の発生を抑えるため、調査、整理については臨時アルバイトを雇用せず、泉屋博古館学芸室実方葉子主査、櫻谷文庫業務執行理事門田節の2名で実施する。

② 画材

櫻谷の画材等の調査、分析、膠、顔料、墨、硯など画材類が櫻谷存命中のままの状態で遺されており、京都市立芸術大学の協力で、公益財団法人泉屋博古館との共同での分析、調査をすすめる。調査結果をもとに、現在調査中の書簡類、写生類、古典書類の調査とあわせて国登録有形文化財(美術工芸品)指定を働きかける。

調査結果は、2019年3月に刊行される京都市立芸術大学美術学部研究紀要63号に発表される論文をベースに2019年6月22日(土)23日(日)の両日開催予定の文化財保存修復学会第41回大会での京都市立芸術大学高林講師らの発表される予定で、これに協力する。

(9) 櫻谷文庫収蔵品の修復・保全(独自)

(10) 所在不明の櫻谷作品の所在調査

櫻谷後半生の文展、帝展出品作品を15年間にわたり連続して購入した小津与右衛門氏所蔵作品の所在について調査を継続する。

(11) 木島櫻谷の墳墓の維持管理を実施する

収益事業等

洋画家茨木捷彰氏の主宰する美術教室茨木絵画教室に画室をアトリエとして、また



地域在住者を主な対象とする整美体操教室(講師:井上敦子氏)に旧画室を教室として提供する。

その他の事業として学校法人ヴィアツール学園との連携による教育支援活動を行う。洋画家浜哲郎氏に制作室として提供していた和館の一部について、教育、地域、美術芸術関係の活用を検討する。